

料金後納

ゆうメール

(株)育脳寺子屋MAC 本部教室 MAC真成塾
〒616-8156 京都市右京区太秦西野町20
電話:(075)871-0374 FAX:(075)882-3777

2020年
7月号

Mathematics Abacus Chinese character

MAC NEWS

お子さんが大人になった時、社会で活躍できるヒントがいっぱい！！

92歳の現役保育士が語る、 「奇跡の保育園」の理念とは？



栃木県足利市にある「小俣幼児生活団」という変わった名前の保育園。

その園は「奇跡の保育園」と呼ばれ、全国からの見学や取材が絶えません。

そしてその園で主任保育士を任されているのが保育歴約60年、御年92歳の大川繁子さんです。大川さんは園についてこう話します。

「ここでの保育を『奇跡』と呼んで頂けるのは、私が92歳の現役保育士だからではありません。確かに長い間保育の現場に立ち続け、何千人もの子供たちを預かってきたけれど、私自身はスゴイ技術を持った奇跡の保育士ではない。

ただ、もし『奇跡』と呼べるものがあるとしたら、それはうちの園ならではの保育のあり方じゃないかしらって思います。

小俣幼児生活団の保育のテーマは、一言で表すと『自由と責任』。卒園する時には、自分のやりたいことに没頭し、自分の頭で考え、自分の能力を発揮できる力（自由に生きる力）と、それに伴う責任を持てる子になっていて欲しい。・ ・日々そう思っています。」

「ほったらかし保育」で子供は伸びる！？

大川さんの保育の根底にあるのは「モンテッソーリ教育」と「アドラー心理学」の考え方で、園ではこの二つの考え方のいいとこどりをしているのだそうです。

「モンテッソーリ教育」とは、障害者教育がルーツの「自立した人間」を育てるための教育法のことです。子供がすべきことを大人が一方的に決めたりはしない、むやみに手や口を出したりしないよう気を付けます。子供が持つ能力を引き出すため、あくまでサポート役（援助）に徹するのです。

「アドラー心理学」では、大人と子供を対等の立場と置きます。長く生きているからといって立場が上なわけでもなければ、命令したり怒ったりしてよいわけでもありません。ただただ子供を認め、尊重します。

(※「モンテッソーリ教育」・「アドラー心理学」に関しては多くの本が出版されています。

子育て・親育てに役立つ内容満載なので、興味のある方はぜひお一読を・・・)

0歳児から5歳児までが通う小俣幼児生活団では、「クラスみんなで同じことをする時間」がありません。一人一人が自分の好きなように過ごします。最年長の5歳児も、みんなで同じことをするのは1日に1時間だけです。

ではその「いいとこどり」とは、具体的にどのような保育なのでしょう？

【自分のことは自分で決める】

- ・ ・ 給食はバイキング形式で、自分はどれくらい食べるのか、自分で決めてお皿によそいます。給食の時間になってもやりたいことがあったら、パスしても構わない。

【お昼寝は強要しない】

- ・ ・ お昼寝は20分経って眠れなかったら起きて遊んでも構わない。

【ルールは園児が決める】

- ・ ・ 保育士が勝手に決めるルールはほとんど無く、園児と一緒に話し合っ

これらはほんの一例ですが、普通の保育園と比べればかなり変わっていますよね。このような保育を園では「ほったらかし保育」と呼んでいるそうです（笑）

大川さんいわく、「教育ほど恐ろしいものはない」

小俣幼児生活団はなぜ普通の保育園とは違う保育を行っているのでしょうか？それは大川さんが体験してきた人生に関係しています。

彼女が生まれたのは1927年（昭和2年）。10歳の頃に日中戦争がはじまり、18歳の頃に第二次世界大戦が終戦するという、戦争の時代を生きてきたのです。

日本は正しい戦いをしているのだから勝って当たり前。負けるはずはない。

そう教えられながら女学生時代には毎日、竹やりを持って「ヤー」と突きの練習。「声が小さい！それでは米兵に勝てんぞ！」と言われ、さらに大きな声で「ヤーッ！！」。何かを考える余裕すらなく、当たり前になんかそんな日々を繰り返していたのです。

そして終戦を迎えた時、彼女は一気に「洗脳」が解けたと言います。

「大人が考えを押し付けたら、子供は簡単に染まってしまう。私はこれから何でも疑って生きよう。いろんな人に話を聞こう。そして自分で物事を判断できるようになろう」

このような経験から「教育ほど恐ろしいものはない」と思い知らされたのです。

その後結婚して栃木にある大川家に嫁ぎ、保育の仕事をするようになった時に、

『自分の経験した教訓を活かさなければ。上から言われて、何も考えず「はい、分かりました」ではなく、自分で考え自分の意見を持って、自分らしく生きられるように子供たちを導いていかなければ』

と心に決めたのでした。そんな思いを持ちながら保育（すなわち「保護」と「教育」）の仕事に約60年携わり、この奇跡と呼ばれる保育園を造り上げたのです。

我が子はどんな花を咲かせる？

奇跡の保育園と呼ばれるだけあって、説明会や見学会には多くの保護者さんが集まります。中にはわざわざ引っ越しをしてまで入園する方もいるのだとか。

そんな保護者さんたちに、大川さんが必ず最初に話すことあるのだそうです。

幼児期からモンテッソーリ教育やアドラー心理学を取り入れた保育を行っていると聞くと、「海外の起業家のようなスゴイ人を育てるのですね！」「早期教育に力をいれているのですね！」という方が多いのですが、私が目指している保育は決してスゴイ人を育てることはありません。私が目指しているのはそれぞれ持っている才能や力をめいっぱい発揮する保育なのです。

子育てで辛いのは、親が本来カスミソウとして花を咲かせる子に対して『**こんなはずじゃない、この子はバラに育つはずだ。育てなければ！**』と思い込むこと。子供を否定することなのです。

もちろん子供を応援し、サポートし、才能を伸ばしてあげる環境を整えるのは親の役割です。ただし、子供が優秀であったり、お金持ちになったり、何か大きなことを成すことが偉いわけではありません。ましてやそれが「子育ての成功」ではないのです。

大川さんはその子なりの花の形や、花の咲かせ方・・・つまり個性を見つけてあげたいと常々思っているそうです。

不幸なのは「スゴイ人」になれないことより、「スゴイ人」像を追い求めて本当の自分を否定すること、自分を認めてあげられないこと、自分の力を発揮できないまま終わること・・・だと思います。

我が子は、我が子でありながらこの世に生まれた瞬間から「他人」です。残念ながら絶対に親の思う通りにはいかないのです。

我が子がどんな花を咲かせる子なのか・・・、ゆっくりじっくり観察してみてください。

どんな親も、願うのは「我が子の幸せ」

親は誰しも我が子の幸せを願っています。願っているからこそ、しっかりした大人になってもらいたいと思い、毎日叱るし、勉強させようとするし、イライラするし・・・。

私も子を持つ親として、その気持ちは痛いほど分かります。それは正常だと思います。

ただ、我々親が生きてきた時代と、子供たちが生きる時代は大きく変わっています。

これだけ多様化した時代、幸せの形は様々です。親の思い描いている「今までの時代（親世代にとって）の幸せ」が我が子にとってもそうなのか？と考えると、必ずしもそうとは言い切れないと理解しなければなりません。

100人中99人が「あの人は幸せだ」と言っている、当の本人が幸せと感じていなければ、それは「幸せな人生」とは言えません。

逆もしかりで、まわりのみんながどう思っていようと本人が幸せを感じていれば、それは「幸せな人生」なのです。

MACに通う子供たちには、MACで学ぶ全てのことを通して

「自分は何に幸せを感じるのか、自分はどの道に進めば幸せな人生を送れるのか」

を自分自身で見つけられる人になって欲しいと思っています。

それが分かれば、何に向かって頑張れば良いかが明確になりますし、放っておいても努力をするようになります。（逆にそれが分かっていないのに頑張れ！頑張れ！と言っても頑張れるはずはありません）

大川さんのお話の中で「教育ほど恐ろしいものはない」という話がありましたが、私もそれは同じ考えで、指導の際は常に子供たちとの『**関係性**』を意識しています。（先述の「アドラー心理学」の考え方に繋がります）

MAC はありがたいことに、多くの方が小 1 から中 3 まで、15 年の人生のうち 9 年間も通ってくれています。それこそ、幼児部からの子は 15 年のうち 12 年です！そうすると、小学校の高学年から中学生くらいになると、

「MAC の先生の言うようにやっといたらいいわ」

と思い、自分で考えず何でもこちらの言うとおりに動こうとする子も出てくるのです。信頼してくれるのはありがたいことなのですが、考えることを放棄して先生の指示を仰ぐとなると、MAC の育てたい人物像とは違ってくるので、よくこんなことを言います。

『自分はどうするのが良いと思う？質問してくれたら先生なりのアドバイスはするけど、それは絶対正解というわけじゃないよ。だってそれは先生がいいと思う方法だけで、自分にピッタリの方法かどうかはやってみないと分からないでしょ？』

『何事も言われた通りにするんじゃないで、あくまで一意見として参考にして、しっかり考えて、最終的には自分で決めてね。』

保育に限らず、教育とは「自由と責任」を体感させてあげることが重要だと考えます。社会に出てからは特に「自由と責任」を感じる場面が多いので、MAC に通う子たちには学生の間はこのことをしっかり教えてあげたいと思うのです。

学生の間なら安全にどんどん失敗させてあげることができます。（社会に出てからの失敗は査定に響き、生活に影響しますから・・・）

失敗しないようにアドバイスをするより、自分で考えて、選択し、行動して失敗し、失敗から学んで貰う。それを繰り返せるようサポートするのが私の役目で、そうすることがどんな英才教育よりも、子供たちの将来を幸せにする方法だと確信しています。

これからも MAC の先生は絶対的存在ではなくて、あくまで子供たちの良き理解者であり、よきアドバイザーという関係性を意識し指導にあたりたいと思います。

今後も我が子の将来の幸せの為、ご理解とご協力どうぞよろしくお願いいたします。

【参考資料：子どもはもっと自由に生きられる 大川繁子（実務教育出版）】

しあわ い ひと ひと 幸せに生きていける人って、どんな人？

あなたは、どんな人が「幸せに生きていける」と思いますか。成績優秀？
こうがくれき じつ たいせつ
高学歴？・・・。いえ、実はもっと大切なことがあるのです。

じゅうよう じゅう い ちから せきにん 重要なのは「自由に生きる力と責任」

とちぎけん きせき ほいくえん よ ぜんこく しゅざい けんがくしゃ た
栃木県に「奇跡の保育園」と呼ばれる、全国からの取材や見学者が絶え
ほいくえん ねんいじょうほいく たずさ いま にん
ない保育園があります。そこで60年以上保育に携わり、今まで2800人
いじょう えんじ み さい げんえき ほいくし おおかわしげこ
以上の園児たちを見てきたのが、92歳にして現役の保育士である大川繁子
おおかわ はな
さんです。大川さんはこのように話します。

じゅう い ちから せきにん
「自由に生きる力と責任さえあれば、
よ なか しあわ い
どんな世の中でも幸せに生きていけますから。」

がくせい あいだ おや せんせい おし かんが
学生の間は親や先生があれこれ教えてくれるので、あまり考えなくても
なに わ おも おとな しゃかい
何をしたらよいか分かりやすいと思います。しかし、大人になり社会に
で はたら すべ じぶん かんが じぶん せきにん こうどう
出て働くようになれば、全て自分で考え、自分の責任のもとに行動をしな
くてはなりません。

いま なに かんが い
なので今のうちから、何も考えずに言われたことだけをするのではなく、
じぶん かんが せきにん こうどう れんしゅう
「自分で考えて、責任をもって行動する」という練習をしておいてくださ
しょうらい しあわ い ひと
い。そうすれば、将来は幸せに生きていける人になれますよ。



じゅう い ちから せきにん
「「自由に生きる力と責任」さえあれば、
こ よ なか しあわ い
どんな子も、どんな世の中でも幸せに生きていけます。」

いじん めいげん
偉人の名言

おおかわ しげこ きせき ほいくえん さい げんえきほいくし
大川 繁子 ～「奇跡の保育園」の92歳の現役保育士～

じぶん へや めだ は よ かえ
自分の部屋の目立つところに貼って、読み返すようにしましょう。